流通とＳＣ・私の視点

2006 年 6 月 17 日

視点(653)　　もう少しで日本経済はバブル経済を超えます!!

最近の経済統計の中に、バブル経済の水準を超える指標が続出しています。日本経済は長期間、デフレ経済の中での実質経済成長がプラスの経済成長でした。でも、2006 年度以降は名目経済成長率がプラスになろうとしています。株式の時価総額や設備投資額や求人倍率や色々の経済指標がバブル経済時代を超えて日本経済が再び大発展の可能性を高めています。

バブル経済崩壊（1991 年２月）以来、今日までの 15 年間を失われた 10 年～15 年と言われています。確かに、バブル（あわ）の経済は地価・株式ともに 10 分の１（つまり“あわ”が 9 割）になって始めて経済が底を打つことが、世界の経済の歴史が証明しています。

日本経済はバブル時代のバブル分（実質的には 9 割）が完全に消えたのは 2000 年～2003 年頃と想定されます。地価は 10 分の１、株価は５分の１（本当は 10 分の１になるのが自然体ですが、政府の助成策で５分の１に留まりました）になり、この段階でバブル分（あわの分）は消え、日本経済は新しい再出発を歩み始めたことになります。

私は、バブル経済時代に企業が行なって失敗したことを「新しいコンセプト」と「現在のコスト」で“今”行なえば、必ず成功すると思っています（六車流：流通理論）。

バブル経済時代の多くのニーズは、国民や生活者の願望であり、潜在的ではあるが実質的に存在していた買い手の本物のニーズだったのです。しかし、提供者側の企業（売り手）が、間違ったコンセプトと過大なコストで、そのニーズを実現しようとした結果、バブル経済が通用している段階までは買い手も間違った判断により受け入れていましたが、バブル経済が崩壊すると、売り手も買い手も大損失をしてしまいました。ゴルフ場の経営を比喩論で示します。ゴルフ場の経営者は、ゴルフの利用者の実質ニーズではなく、会員権という金融資本によって、ゴルフ場の経営を行なおうとしました。また、買い手もゴルフ場の利用ではなく、ゴルフの会員権の値上りを期待してゴルフ場の会員権を取得しました。**売り手も買い手も、ゴルフ場の会員権を利用価値ではなく交換価値で判断していたわけです。**それゆえに、巨額の投資をしてもバブル経済時代のゴルフ場の経営は一時的には成り立っていたわけです。

現在は、すべて使用価値に基づき経済が動いています。不動産価値も、収益還元法に基づき、交換価値には関係なく価値づけられています。

バブル経済時代の交換価値に基づく企業コンセプトではなく、**利用者に対する真の価値を提供するコンセプトと、現状の利用価値から判断される投資基準で事業を行なえば、必ず成功します。**バブル時代に国民や生活者が望んだことは今、売り手の新しいコンセプトや適正なるコストによって、買い手の満足の高いレベルで実現されつつあります。

日本経済は、この 10 年～15 年間、試練の時期を過ごし、失われた 10 年～15 年と言われてきました。しかし、経済覇権国家になるためには、必ずバブル経済を経験しなければならないのです。農業国家から産業国家、さらに金融国家への道を歩む場合、必ず、経済の実態以上の資本が国の内外から集まります。この現象を金融経済といいます。その結果、成り金的な経済行動が行なわれ、一度は、バブルが弾けるのです。オランダ、イギリス、アメリカ…等の過去の覇権国家は必ずバブル経済とその崩壊を経験しています。次は日本です。**バブル経済とバブル経済の崩壊を味わえる国は、選ばれた国であり恵まれた国なのです。**いよいよ日本の時代が来ます。評論家が意味のない日本亡国論（例えば少子化や中国驚異論…等）を言っていますが、日本経済の底力は強力であり、必ず多くの課題を解決します。

(株)ダイナミックマーケティング社[3]
代　表　六車（むぐるま）　秀　之

Copyright (C)1993-2005 Dynamic Marketing Co.,Ltd. All rights reserved.